

区民と区長のタウンミーティング概要

日 時	令和2年1月23日(木) 19時00分から21時00分
会 場	上鷺宮区民活動センター 洋室3、4号
テ ー マ	8050問題と地域の支えあい
出席者 区 民	計 27人 (男 7人、女 20人)
区 側	区長 企画部基本構想担当課長 鷺宮すこやか福祉センター所長及びアウトリーチ推進担当課長
事務局	企画部職員3人、上鷺宮区民活動センター職員2人
一時保育	無
手話通訳	無

区長あいさつ

8050問題は、これまでのタウンミーティングでは扱わなかった初めてのテーマだ。中野区内でも、8050問題に該当する世帯が多数あると推計されているが、実態が分かりにくく、区として正確な数字が分かっていない。今、対策を始めなければ、8050問題が9060問題へシフトし、深刻化してしまう。したがって区として取り組まなくてはならない喫緊の課題だ。
現在改定に取り組んでいる基本構想においても、8050問題は大きなテーマだ。皆さんの身近なところでの気づきや事例等を伺い、区としても課題を認識して、皆さんと一緒に8050問題について考えていきたい。

各グループの発表概要

- 8050問題についてどのようにとらえているか。
 - ・引きこもってしまうと、社会との接点はコンビニと病院くらいしかない。
 - ・ニーズの把握ができないとケアはできない。個人情報保護法のデメリットを感じる。
 - ・発達障害や精神疾患に教育段階で気づかなかったことが原因で8050問題が起きている。
 - ・虐待や単身高齢者は把握しやすいが、8050問題は把握が難しい。
 - ・引きこもりの方を自立させるといふより、親が亡くなった後も、安心して暮らせる体制を整えるべき。
 - ・就労しない理由として、トラウマ・疾患・介護の3つが考えられる。
 - ・親側にも、どう対応すれば良いか分からない悩みがある。
 - ・人に助けを求めることをみっともないと考えている人が多い。
 - ・社会的にあまり認知されていない。
 - ・今に始まった問題ではなく昔からある問題。
- 支援策
 - ・病院や医療現場で福祉のサポートを受けられるようにする。
 - ・発達障害や精神疾患について、教育段階で発見できるように、医療機関とのつながりを強化する。
 - ・となり近所で声を掛け合う。
 - ・地域での見守り体制を強化する。
 - ・引きこもりの方が、コミュニケーションを図っていけるようなイベントを開催する。
 - ・認知症や8050問題には家族会があると思う。悩みを抱えている本人や家族に早く気づき、必要な支援につなげていく必要がある。
 - ・昔からその家庭をよく知っていて、親しい人の働きかけが重要である。
 - ・区報でのアピールが必要である。

発表に対する区長のコメント

- 発表に対するコメント
 - ・個人情報保護法の関係で病院等から情報の提供を受けることが難しいので、医師会との情報共有の仕方について考えていきたい。
 - ・公立の学校に通っている間（義務教育期間）は行政ともつながっているが、高校生以上になると一人ひとりを把握することが難しくなっていく。教育段階において、発達障害等をきっかけにして引きこもってしまった時に、行政として把握できるよう見守り体制を整えたいと考えている。
 - ・近所・地域でのゆるやかなつながりを作っていく、それから民生児童委員とつながっていくのがよいと考えている。
 - ・区報等で8050問題について特集を組んでみようと考えている。
 - ・全員が同じ課題意識を持つこと、啓発活動をしていくことが必要である。